

島本町立歴史文化資料館 館報第 15 号



令和 5 年 12 月

島本町立歴史文化資料館

はじめに

令和4年度の企画展は、後鳥羽上皇(1180～1239)や水無瀬神宮に関連したものを中心に行いました。

1月より放映が開始された大河ドラマでは、主人公である北条義時(1163～1224)が鎌倉幕府2代目の執権となり、この間に後鳥羽上皇と対立、承久3年(1221)に後鳥羽上皇は北条義時に向けて討伐の院宣を発し、承久の乱が起こります。その後、義時は亡くなりますが、ドラマでは承久の乱に至るまでの、北条義時と後鳥羽上皇の様々なやりとりが話題となりました。

放映をきっかけに後鳥羽・土御門・順徳の三天皇をまつる水無瀬神宮を訪れる人が増え、資料館にも多くの入館者でにぎわいました。

5月は「遷幸 ～隠岐のごとばんさん～」と題し、海士町で催された後鳥羽上皇関連の行事を紹介し、10月には「後鳥羽院と水無瀬」として、多種多様な遊芸に秀でた後鳥羽上皇に関連した伝統文化や、和歌に関連して水無瀬神宮が所蔵する未公開の資料を紹介しました。遷幸先である海士町とも連携をとり、後鳥羽上皇にゆかりのある2町で後鳥羽上皇を取りあげました。

その他にも、前年度に寄贈された資料を紹介する「寄贈資料大集合！」展や埋蔵文化財に関係した「町内発掘調査成果速報展」、また民俗資料を中心とした「むかしの道具」展を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を執りながら、無事開催することができました。

展示期間中には、住民の皆様をはじめ、多くの方々から関心をいただき、約16,000名の方々に入館していただきました。

今後もこれまでと同様に、地域の活動を応援するとともに、町の文化財保護の普及啓発活動や学習活動を支援する施設であり続けることができるよう努めてまいりたいと思います。

本稿では、令和4年度の当館の事業を報告することで、皆様方へのお礼と代えさせていただきます。今後の益々のご支援・ご協力を、心からお願い申し上げます。

令和5年12月

島本町立歴史文化資料館
館長 久保 直子

目 次

はじめに	1
講演会	
「数奇の雑談 一千利休を中心として」 講師 筒井 紘一 氏	3
「後鳥羽院の『時代不同歌合』と定家の『百人一首』」	
講師 吉海 直人 氏	5
「足利義昭は道休か？」	
講師 小泉 信吾 氏	7
展示	
企画展 「令和3年度 寄贈資料大集合！」	9
企画展 「町内発掘調査成果速報展」	9
企画展 「遷幸 ～隠岐のごとばんさん～」	10
企画展 「後鳥羽院と水無瀬」	11
「未公開資料の実物展示」	11
企画展 「水無瀬駒 関連資料」実物展示	12
企画展 「むかしの道具 ～音・聴く・奏でる～」展	12
事業報告	
企画展・催物一覧	13
団体施設使用による催物一覧	13
入館団体	14
利用状況	14
寄贈・寄託	14
受入れ図書 令和4年度	15
町指定文化財一覧	18

講演会 「数奇の雑談^{ぞうだん}

—千利休を中心として—

令和4年11月5日(土)

茶道総合資料館^{ちやどう} 顧問 筒井 紘一 氏



皆様、こんにちは。よろしくお願いします。

1990年に、京都国立博物館で、千利休の四百年忌の特別展覧会がありました。その四百年忌から32年ぶりに、京都国立博物館で大茶道展が行われており、大徳寺の龍光院所蔵の国宝の曜変天目などが陳列されています。この大茶道展には、京都が育てた茶道文化ということで、女性の茶という展覧から新島八重さんの作った茶碗や茶杓も展示されています。それまでお茶は、男性がするもので、女性はほとんどいたしませんでした。明治5年に、全国で最初の女性の学校である女紅場ができましたが、そこではまだお茶も、花も学びませんでした。最初にお茶を取り入れた学校は、跡見女学校で、明治8年からです。

お茶とは、二幕のドラマと考えてください。一幕目では食事をして、休憩時間のインターバルがあり、二幕目でお茶を飲みます。よく、日常茶飯事といいますが、茶道とは、ご飯を食べることとお茶を飲むことでできあがっている生活文化です。

南北朝時代には、最初に食事をして、続いてお茶を飲むという、茶道の原型が出来上がっています。その割合は、食事が95%でお茶が5%ぐらいです。室町時代に、徳島の城主で、三好長慶という大名がいました。家来の松永弾正と織田信長によって滅ぼされてしまいますが、三好長慶が將軍を招いた茶会があります。これが室町時代の正式なお茶会です。午前11時ごろに將軍が屋敷にいらっしゃいます。そしてまず、式三献という儀式をしてから、会所という大きな部屋に移り、招かれた人たちとの食事が始まります。七つのお膳が出されて、それを2時間かけていただきます。それが終わると、献が始まります。これを献立といいます。献立とは、お食事のメニューではなく、お酒を飲むための設えです。午後2時ごろから四献目が始まり、そこから、最大で二十三献立まであり、終わるのが、翌日の午前6時ごろです。十三献立だと夕刻の6、7時ごろ、十七献立だと夜の10時ぐらいまで行われます。その間には能楽が行われます。神能から始まり、女能、武士中心の能など、五番仕立てというものがあり、狂言や女性の舞などが行われます。お酒を飲んだ後で、お茶をたてて終わります。これが本膳料理の儀式で、室町時代の武家の代表的な食事の仕方です。

これが利休による草庵でのお茶会になると、食事の割合が4ぐらい、お茶が6ぐらいになります。歌舞伎などのために舞台を整えたり、茶席の準備のために、15分から20分ぐらい時間をとりその後、濃茶と薄茶をいただくというのが茶道です。今の茶道の始まりです。これが1550年ごろ、戦国時代の終わりごろに武野紹鴎によって整えられて、その弟子の千利休によって完成されました。これが今の草庵でのお茶というものです。

江戸時代になると茶会は、二刻つまり4時間かかるようになります。1時間半ぐらいが食事、そ

して 30 分弱の休憩時間をおいて、その後の 2 時間がお茶席になります。利休の時代には、お茶席では喋って良いことと喋ってはいけないことが決まっています。喋ってはいけないこととは「我が仏。隣の宝、婿舅。天下の戦、人の良し悪し」といい、これを世間雑談と言います。対して、お茶席の中で喋って良いことを数寄の雑談と言いました。亭主と客、または、客同士が色々喋りながら、4 時間過ごしていくわけです。食事をしてお茶を飲むだけなら、日常と一緒にです。なのに何故、武将たちは茶の湯を学び、茶会に招待したりされたりします。また呼ばれたい、また行きたいという風になるのか、ちょっとお考えになってみてください。

今度は、少し別の話になりますが、今年 7 月に茶会を開催し、濃茶は私が担当し、薄茶を担当してくださった北風宗照先生という方がいらっしゃいますが、この先生は大正 9 年生まれで、なんと今 103 歳です。北風先生にお茶との関わりをお聞きしましたところ、「40 数年間、私の生きがいは茶道なんです。」とおっしゃいました。生きがいは、20 年、30 年と続けて、初めて感じられるんだらうと思いました。

さて、数寄の雑談の最後になります。先ほど申しました本膳料理と比較しまして、今度は茶道における食事とお茶はどのような関係なのか。利休は、23 歳に初めて堺の町で茶道人として活躍を始めて、70 歳まで 50 数年間やっていくわけです。利休は、一汁三菜で二献立というお膳を出します。飯と汁、そして三菜といった和え物や、お刺身や焼き物が出てきたら終わりです。焼き物や刺身物は、ご飯のおかずではありません。お酒が出てきたら食べていいんです。これが、お茶の決まり。そして、休み時間の中立ちがあって、その後に濃茶と薄茶を飲むわけです。

そうしますと、お茶とは何だろうかということです。またお茶に呼ばれたいと思うのは何故か。利休はこういう風に言っているんです。お客様に対して「振る舞いは小豆の汁に海老鱈。亭主給仕をすれば済む也」。亭主が給仕をなさいますと言っています。世界中の食事文化で、主人がお客様に給仕をする文化は本当に日本の茶道しかないんです。イエズス会の宣教師のルイス・フロイスが、『日本史』という本の中で、信長に食事に招かれて、その時に信長自身が御膳を運んできて驚いたとあります。

利休はまた、お茶の料理は日常食べている程度のもを出しなさいと言いました。一汁三菜です。しかしそれで満足しますか。お腹いっぱいでも余るぐらいに用意するのが人間のもてなし方なんです。お茶にはそれがありません。唯一、お茶の最高のもてなしは、亭主が給仕をすることなんです。それが、お茶の特色です。ですから、お客様を招くに当たって、亭主自身は感性を豊かにしておかなければならないんです。

人間には、知力（感性）、体力があります。しかし、体力も知力も年とともに衰えていきます。感性も衰えます。感性は、感動と驚きと興味を持つことで豊かになります。この感性の衰えを守ってくれるもの、それが日本が育ててきた文化なんです。その内の一つは茶道であり、または能であり、歌舞伎であり、俳句であり、和歌であり、何でも構いません。ですからそうしたのももって、私共は 100 歳時代を生きていかなければならないなと思っております。まとまりのない話でございますけれども、終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございます。ありがとうございました。

講演会 「後鳥羽院の『時代不同歌合』と 定家の『百人一首』」

令和4年11月12日(土)

同志社女子大学 教授 吉海 直人 氏



水無瀬は、歴史のみならず古典文学でも憧れの場所です。さっそく後鳥羽院が水無瀬を歌った「見渡せば山もと霞む水無瀬川夕べは秋と何思ひけん」についてです。ここで注意したいのは、「夕べは秋」です。枕草子で、「春はあけぼの。〈中略〉夏は夜、秋は夕暮れ」とあり、秋は夕暮れがいいと主張されています。これは清少納言がはじめて打ち出した美意識です。和泉式部の「恋しさも秋の夕べに劣らぬは霞たなびく春のあけぼの」に、春のあけぼのと秋は夕暮れの両方出ています。まさに枕草子を引き受けてるわけで、春と秋とどっちがいいのか、これも文学において大きなテーマのひとつです。それに対して、藤原清輔の「薄霧のまがきの花の朝じめり夕べは秋と誰かいひけむ」の「夕べは秋と誰かいひけむ」は枕草子のことで、夕べは秋だと清少納言が言っているけど、秋の朝も捨てたもんじゃないと、はじめて枕草子と違うことを言ったわけです。後鳥羽院は「夕べは秋と誰かいひけむ」という表現を踏まえて、「夕べは秋と何思ひけん」といい、水無瀬川の春の夕暮れも良いなという思いをこの歌に込めています。新古今の歌人たちは枕草子だけでなく源氏物語も徹底的に読んでいて、それを歌に踏まえていくということを繰り返しているわけです。

後鳥羽院は定家より若く、承久の乱で隠岐に流されて60歳で亡くなっています。百人一首の中に、後鳥羽院の「人もをし人もうらめしあぢきなく世を思ふゆゑにももの思ふ身は」という歌がありますが、数ある名歌の中で定家はなぜこの歌を百人一首に採ったのか。同じように定家の「来ぬ人を松帆の浦の夕風に焼くや藻塩の身も漕がれつつ」も、もっと他に採るべき歌はあると言われていることから、百人一首は必ずしも秀歌が選ばれていないと何百年にわたって言われています。

今日、テーマにしたいのは、百人一首だけではなく、『時代不同歌合』です。隠岐に流された後鳥羽院が、100人の歌人の秀歌撰を作っていると知った定家は、それに対抗するかのようにな百人一首を選びました。両作品で100人中67人の歌人が一致します。『時代不同歌合』の中務、花山院、小侍従、斎宮女御といった人たちは、勅撰集に歌が40首以上入っている一流歌人です。それに対して、百人一首にしかいない天智、持統、猿丸、仲麻呂、陽成院、源融などは、勅撰集に一桁くらいしか歌が入っていないので一流歌人とは呼べない人たちです。『時代不同歌合』は秀歌撰として成り立っていますが、百人一首は秀歌撰とは言い難いと言えます。にもかかわらず、藤原定家が選んだ百人一首は、秀歌撰であるという幻想が抱かれています。だからもっと別に、百人一首を作った意図があるのではないかと、秀歌撰ということだけで百人一首を考えていたら、大事なものを見落とす可能性があるというのが私の百人一首研究の一つの核になっています。

『時代不同歌合』から後鳥羽院自撰の三首です。「桜咲く遠山鳥のしだり尾の長々し日も飽かぬ色かな」は、人麻呂の「あしびきの…」の歌を本歌取りしています。本歌取りでは、古い歌をとりながら、その主題や季節を変えます。「あしびき…」の秋の寂しさから、「桜咲く」で季節を秋から春に変えています。それと同時に、夜の長さを春の歌にすると、昼の長さに転換して長々し日と変

えています。次に「秋の露や袂にいたく結ぶらむ長き夜飽かず宿る月かな」は、源氏物語の桐壺の巻の「鈴虫の声の限りを尽くしても長き夜あかずふる涙かな」を本歌取りして、趣向を変えたところが後鳥羽院の上手いところです。さらに「袖の露もあらぬ色にぞ消え返る移れば変る嘆きせし間に」も、源氏物語の若菜上「目に近く移れば変はる世の中を行く末遠く頼みけるかな」から本歌取りしています。後鳥羽院は、自分の歌を3首選んでいます。ここに「人もをし…」はありません。後鳥羽院が自分でいい歌として挙げていないこととなります。この自撰の3首はどれも百人一首にはありません。ということは、後鳥羽院と定家の意識にズレがあります。「人もをし…」は須磨巻の「かかるをりは、人わろく、うらめしき人多く、世の中はあぢきなきものかなとのみ、よろずにつけておぼす」を踏まえています。須磨に流謫した光源氏が述懐するところです。但し、隠岐に流される前に詠んでいるので、後鳥羽院が自らを須磨に流された光源氏の気持ちと重ねたとはいえません。しかし定家が百人一首を選ぶ時には、後鳥羽院は隠岐に流されていますので、定家ならこの「人もをし…」に、後鳥羽院が光源氏と同じように流されているという思いを託すことができます。このように百人一首の歌は、その人の人生を読み取れるような歌が選ばれていると思います。

では、後鳥羽院が選んだ定家の歌を見てください。「さむしろや待つ夜の秋の風更けて月を片敷く宇治の橋姫」、これも源氏物語が投影されています。この歌の「風更けて」というところですが、風は更けるじゃなくて吹くものです。「更けて」は夜が更けるや秋が更けるんです。この「風更けて」は、定家が掛詞を豊富にするために作った造語です。そして、「住吉の松に秋風小夜更けて…」という後鳥羽院の歌ですが、後鳥羽院も定家の用法使って詠んでいます。さて次の歌、「独り寝る山鳥の尾のしだり尾に露置きまよふ床の月影」ですが、後鳥羽院は同じ本歌から自分の歌と定家の歌に並べています。それから3つめ、「消えわびる移ろふ人の秋の色に身をこがらしの森の下草」という歌があります。この歌にも本歌が踏まえられています。『古今和歌六帖』の「人しれぬ思ひ駿河の国にこそ身をこがらしの森はなりけれ」です。「身をこがらしの森はなりけれ」というのが「身をこがらしの森の下草」に使われています。この歌は駿河の国のすると、ひとしれぬ思いをするの掛詞です。冬の木枯らしと、身を焦がすとの掛詞。森は、露が漏れるとか涙が漏れるとか、森はもれるの3つの掛詞をひとつの歌に踏まえて、かなり技巧的な表現をしている歌です。

俊成の歌を見てください。『時代不同歌合』に「年暮れし…」「立ち帰り…」「世の中よ…」とあります。俊成に関しては、「世の中よ…」の歌で後鳥羽院と定家が一致しました。後鳥羽院は俊成を非常に尊敬していて、「三十六歌仙」と重なる『時代不同歌合』の歌のほとんどは、俊成が選んだものをそのまま選んでいます。定家はその逆で、俊成が選んだものと違うものを選びますが、この歌は、俊成以上に定家にとって意味があります。この歌は俊成 27 歳の時、官位の昇進がままならなく出家しようと思ってこの歌に詠みました。この歌は猿丸大夫の「奥山にもみぢ踏み分け鳴く鹿の…」を踏まえた本歌取りです。出家しても辛いことから離れられないと思ったのかどうかわかりませんが、この歌を詠んで出家を断念した後に定家が生まれるんです。定家が誕生する大事な歌なので、定家はこの歌を百人一首に選んだんじゃないかと密かに思っています。

俊成は長寿で 70 歳を過ぎて、千載集の撰者が回ってきました。定家も 74 歳で新勅撰集の撰者が回ってきました。長寿というのは武器といえます。俊成 91 歳、定家 80 歳、家隆も 78 歳で長寿です。ということをお話して、本日の私のお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

講演会 「足利義昭は道休か？」

令和4年11月20日（日）

将棋史研究家 小泉 信吾 氏



水無瀬神宮蔵の「将棊馬日記」（以下「馬日記」）に記されている「道休」は、現在では室町幕府15代将軍足利義昭が「道休」である見解が定説のようになりつつありますが、史料や当時の社会状況から見ると、かなり大きな問題点があり、結論を先に述べると、馬日記記載の道休は別人物の可能性が強く、足利義昭では無いという私の見解です。

まず第一の疑問点は、象牙駒の納品された年代の慶長3年（1598）には義昭は存在せず、慶長2年8月28日大坂で亡くなっています。この矛盾を解決するために注文後に製作したが、生前に間に合わず、後の納品となったという見解がありますが、全く根拠のない説で、史料を検討せず、そのまま鵜呑みにして、「注文した駒を見ることなく没した」という学者も出てくるようになってきています。一度間違った説が先行してしまうと、先に言った方が勝ちの先手必勝的な要素がありますが、歴史は科学ですから、史料を充分検討し、実証しなければ物語の世界になります。若干前置きが長くなりましたが、記載例と足利義昭の略年譜を検討しながら説明することにします。

足利義昭の誕生は天文6年（1537）に足利義晴の子とし、幼名は千歳丸、法名は覚慶→さらに義秋→義昭→昌山道休と改名しています。別名はひどく「貧乏公方」と言われています。義昭は波乱万丈の人なので、晩年にのみ集中して述べます。本能寺の変により対抗していた信長が横死し、豊臣政権が確立すると帰京し、将軍を辞して出家し昌山道休と号しました。それが天正16年（1588）正月でした。その後秀吉の朝鮮出兵時には肥前名護屋（佐賀県唐津市）に従軍したが、慶長2年（1597）8月に大坂で死去しました。その後は秀吉の許可のもと、ひっそりとした葬儀が行われました。義昭の死後、西笑承兌が京都所司代、前田玄以のもとに赴き、等持院の大工2人と義昭の棺と火屋（火葬場）を作るためと申請したが、1人のみ許可され、承兌は嘆き、日記に「世が世であれば・・・云々」と記しています。この様な状況で仮に道休が義昭だったとして将棊馬を2組も発注し、その1組は超高級品の象牙であったことは、政治状況及び経済的問題から見ても無理な話です。

また、馬日記の記載例から見ても、矛盾点が多いと考えられます。水無瀬兼成氏は貴族であり、家格は羽林家であるが、祖父に三条西実隆がいます。公家社会では、五撰家を頂点として六段階があり、将棊馬の発注者の記載にも厳格に反映しています。徳川家康の記載では、最初は家康のみの記載ですが、後に内府とされているように明確に官位や家格が反映されています。

足利義昭の地位は、馬日記に記された時期は准后であり、准后とは太皇太后・皇太后・皇后の三后に准じた称号で、准三宮・准三后と呼ばれています。記載例に忠実ならば准后なり、正式に昌山道休と記すべきであります。記載例としては、『聚楽第行幸記』、これは後陽成天皇が行幸し、5日間過ごした記録を記したもので、3日目の和歌御会で、一番大和大納言（羽柴秀長）、二番駿河大納言（徳川家康）等から始められ、廿六番室町准后（足利義昭）、二七番六宮（智仁親王）廿八番関白殿（豊臣秀吉）とあります。記載は、道休ではなく室町准后とされています。また、『義演准

后日記』慶長元年（1596）5月25日、伏見城においての記載では、「・・・次八条宮（智仁親王）・・・最初近衛入道准后（近衛龍山）次將軍入道准后（足利義昭）」の順で記されています。この中でも准后は、義演も含めて4名います。2例とも道休とは記されていません。撰家や大臣・門跡等の記載にうるさい公家の日記であるため、特に地位や家格について個人的な恩讐があっても、上から目線の呼び捨て的な記述はないと考えられます。

それでは、道休が足利義昭でなければ誰であったかという問題が発生します。管見の及ぶ範囲で調べた結果、確定ではありませんが、有力な候補者が浮かんできたので述べることにします。

道休は、茶入れで有名な在中庵道休の銘がある古瀬戸の茶入れで、戦国大名で有名な小堀遠州が長く所有しており、多くの茶会で使用しています。現在では大阪の藤田美術館蔵となっています。在中庵道休とは、どんな人が正確に記した史料はありませんが、堺にあった臨済宗大徳寺派のお寺で南宗寺という寺院が現在もあります。お寺の由緒等について概略すると、16世紀中頃から京都を中心に勢力があった三好長慶が、非業の死を遂げた父の三好元長の菩提のため開山し、南宗庵を元に南宗寺を創建しました。その後、松永久秀の兵火や、慶長20年（1615）大坂夏の陣で大野治房による堺焼き討ちで焼失しています。

その後、元和5年（1619）沢庵宗彭により再興され、17世紀半ばに整備されています。戦国時代の堺は、ドラマ等で有名になった「黄金の日々」で商業・文化の中心地であり、信長とも一時期対立する時もありました。堺発生とも言われる茶の文化の中心的存在であり、茶人で有名な武野紹鷗、千利休がこの南宗寺で修行した縁の寺です。その南宗寺の塔頭の一つに在中庵があり、道休がいたと考えられます。小堀遠州は、この道休から譲り受けたので銘を「在中庵」としています。

道休の記載に関して馬日記以外では、現段階では明確なものはありませんが、一部で当時流行した茶之湯の茶会記があります。茶会記とは、年月日や場所及び参加者の次に茶道具や当日の料理・茶菓子等について詳細に記されています。有名な茶会記に、「松屋会記」があります。これは奈良転害郷の塗師松屋家の記録で、松屋久政・久好・久重の3代にわたり、慶安3年（1650）までの約120年間の大記録となっています。現段階で正確に見い出してはいませんが、奈良の茶会に道休が参加した記録が残っているそうです。「松屋会記」を早速調べましたが、まだ発見していないので、正確なことは言えませんが、茶人である道休であるなら可能性は大きいと思われます。また「松屋会記」の別稿の記載に茶道具とは別に将棊盤・碁盤が置かれていた記録があり、茶会での時間待等の接待の道具として常設していたと考えられます。

馬日記に記された人物は、上は天皇家から関白等の有力貴族・戦国大名・僧侶・有力商人が主です。特に戦国時代は戦のための情報収集や会合のための場として連歌の会、茶会が大いに利用されています。そのため、連歌師や茶人、僧侶はどちら側にも属さないフリーランスの立場であります。その時代の必要性からも社交場の一部として将棊の駒も必需品として備えられ茶道具同様に高級品の嗜好が強まり、大いに水無瀬駒が珍重されたと考えられます。

最後になりますが、史料等の検討から考えても、道休は足利義昭ではなく、堺南宗寺の塔頭であった在中庵道休が本来の発注者であると確信しています。この講演以降からは、道休は在中庵道休であり、象牙駒は誤解を招かないためにも、茶入れ同様に在中庵道休駒と呼ぶべきと提案します。

ご清聴ありがとうございました。

展示

企画展 「令和3年度 寄贈資料大集合！」

展示期間：令和4年4月13日（水）～ 5月22日（日）

資料館には、島本町はもとより、高槻市、大山崎町の近隣からも資料を寄贈していただいております。令和3年度は110点の多岐にわたる資料を寄贈をいただきました。

今回の展示では、本町教育委員会発行の「しまもとの郷土かるた」（昭和59年3月）の絵札の原案を担当され、町内に在住されていた切り絵作家、故藤田季芳氏が作成された東大阪市の「かるた」を寄贈していただき、それらを中心に展示しました。



これらの資料は、ご寄贈いただいた方々の家に代々受け継がれた貴重な資料であり、これらの調査・保存・活用を行い、当資料館の今後の展示に役立ててまいります。

企画展 「町内発掘調査成果速報展」

展示期間：令和4年7月21日（木）～ 9月11日（日）

令和3年度は、桜井遺跡と尾山遺跡で調査を実施しました。桜井遺跡での範囲確認調査では、近世の土師器皿を中心とした遺物包含層を確認し、尾山遺跡での発掘調査では、弥生時代から中世にかけての遺物とともに溝や落ち込み跡などの遺構を検出することができました。

今回の成果速報展では、この2件の発掘調査の成果を紹介するとともに、令和4年5月に報告書の刊行をもって発掘調査が完了した令和2年度実施のJ R島本駅西土地区画整理事業に伴う尾山遺跡の発掘調査の成果についても、前年度の成果速報展で紹介できなかった資料（縄文土器、弥生土器、古墳時代の土師器や埴輪など）を中心にあわせて展示しました。



企画展 「遷幸 ～隠岐のごとばんさん～」

展示期間：令和4年5月25日（水）～ 7月18日（月・祝）



島根県隠岐郡海士(あま)町では、後鳥羽上皇に由緒を持つたくさんの伝承と文化が今日に伝えられ、後鳥羽上皇のことを親しみをこめて「ごとばんさん」と呼んでいます。

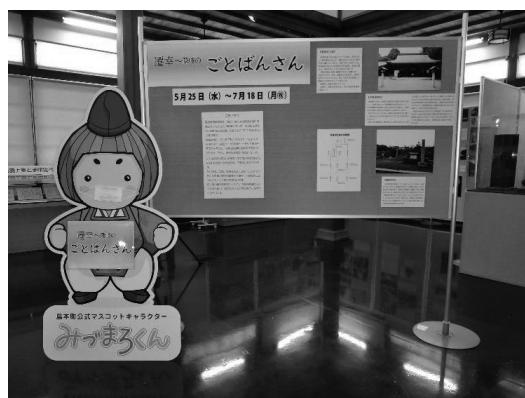
令和2年に、海士町では「承久3年(1221)から令和3年(2021) 800年・・・そして未来へ」をスローガンに「後鳥羽院顕彰事業実行委員会」が立ち上げられ、様々な事業が計画されました。

これは承久の乱後、後鳥羽上皇が海士町に遷られ、800年が経った年を記念して展開されたものです。

また、後鳥羽上皇にちなんで行われた海士町での事業「ごとばんさん 伝統文化未来教室」では「囲碁体験」「和歌」「琴」「茶道」「蹴鞠(けまり)」「刀剣」「料理」等が行われ、後鳥羽上皇が島で親しまれた伝統文化を体験し、関連した行事が催されました。

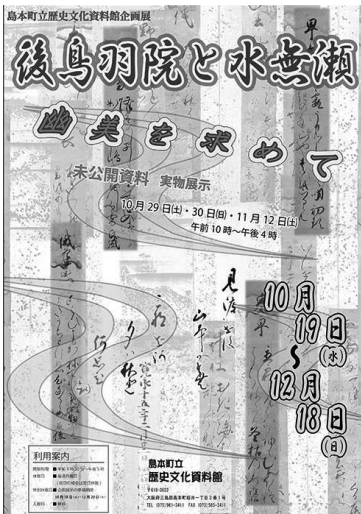
展示では、これらの様子を「後鳥羽院顕彰事業実行委員会」や海士町教育委員会の協力を得て、写真パネルで紹介することができました。

本町とも関わりの深い海士町のことを、来館者の方々に知っていただけるよう、後鳥羽上皇に関係した遺跡や町の様子を同時に紹介しました。



企画展 「後鳥羽院と水無瀬」

展示期間：令和4年10月19日（水）～12月18日（日）



大河ドラマで「鎌倉殿の13人」が放映され、主人公の北条義時と後鳥羽上皇が対立する承久の乱に向けて話が展開していくにつれ、ドラマの展開についての感想や、後鳥羽上皇の話をされる来館者が増えていきました。

展示では、多種多様な遊芸に秀でた後鳥羽上皇に関連した伝統文化や、水無瀬神宮が所蔵する未公開の文化財等を紹介しました。

また、展示に関連した講演会では、茶道に関連した話や後鳥羽上皇と藤原定家、『百人一首』についてのご講演を頂き、文化人としての後鳥羽上皇について知ることができました。

【未公開資料の実物展示】

展示期間：10月29日（土）・30日（日）・11月12日（土）

- ごみずのおてんのうしんかんごかいし
・後水尾天皇宸翰御懐紙 「見渡せば」

後鳥羽院の御所（五辻殿）で、歌会が行われた時に詠まれた和歌を、後水尾上皇が懐紙に書かれたと伝わるものです。

- せいきおきごびょうえほうのう
・四百年聖忌隠岐御廟江奉納和歌 寛永15年

寛永15年(1638)に、後鳥羽上皇の御四百回忌法要が行われ、水無瀬氏成（水無瀬家13代の子息）は隠岐に赴き、源福寺（海士町にある後鳥羽上皇の行在所）に、この和歌を納めました。

- ・水無瀬神宮 本殿 棟札(文禄五年/慶長五年 記載)

文禄5年(1596)の大地震によって、御影堂は倒壊しますが、宮中からの寄付

によって、慶長5年(1600)に再興されます。それを示す資料です。

未公開の資料とあって、遠方からの来観者も多数あり、3日間の展示では、約200名、期間中は約3,000名の来館者が訪れました。



上 後水尾天皇宸翰御懐紙
下 四百年聖忌隠岐御廟江奉納和歌



水無瀬神宮 本殿 棟札

企画展 「水無瀬駒 関連資料」 実物展示

展示期間：令和4年11月19日（土）・20日（日）

水無瀬神宮の宮司を務める水無瀬家には、約400年間伝わる「水無瀬駒」があります。

安土桃山時代の公家で能筆家であった水無瀬家13代目の兼成(1514-1602)が駒の銘(文字)を書き、89歳で亡くなるまでに700組以上もの将棋駒を制作しています。駒の高級材質で知られる黄楊ワカヤナギで作られ、作者と制作年が特定できる最古の将棋駒ともいわれています。



譲渡先には天皇や公家、大名、高名な武将などがあり、徳川家康には53組もの駒が納められました。先が細く薄く、手前が肉厚幅広い現在の駒の形は兼成が確立させ、以後、高級な駒の形はこれになっています。

常設展示では、複製品を展示していますが、毎年秋には実物の「水無瀬駒」を見ていただこうと、水無瀬神宮にご協力をいただいています。

今回は・小将棋 八十二才(漆書) ・中将棋 八十六才(墨書)をお借りし、多くの方々に「水無瀬駒」の魅力を伝えました。

企画展 「むかしの道具 ～音・聴く・奏でる～」展

展示期間：令和5年2月8日（水）～ 3月26日（日）

今年度は、「音・聴く・奏でる」というテーマで、町内の方々から寄贈いただいたむかしの「音」に関係した資料を展示しました。

今では見かけなくなった「テープデッキ」や「カセットデッキ」、「蓄音機」や「足踏みオルガン」などを展示しました。

「レコード」は、SP盤、EP盤、LP盤など色々な種類があり、なかでもドーナツ盤やフォノシートは、来館された方もむかしを懐かしみながら見学をされていました。



社会科見学で来館した町内の小学3年生の子供たちは、初めてみる楽器や道具を熱心に見学し、使い方の質問や説明を聞いていました。また、同時にむかしの農具と雛人形も毎年展示しています。

事業報告

企画展・催物一覧

開催日	企画展名
令和4年4月13日(水)～5月22日(日)	「令和3年度 寄贈資料大集合！」
令和4年5月25日(水)～7月18日(月・祝)	「遷幸 ～隠岐のごとばんさん～」
令和4年7月21日(木)～9月11日(日)	「町内発掘調査成果速報展」
令和4年10月19日(水)～12月18日(日)	「後鳥羽院と水無瀬」
令和4年10月29日(土)～10月30日(日) 令和4年11月12日(土)	「未公開資料の実物展示」
令和4年11月19日(土)～11月20日(日)	「水無瀬駒 関連資料」実物展示
令和5年2月8日(水)～3月26日(日)	「むかしの道具 ～音・聴く・奏でる～」展

開催日	催物
令和4年4月17日(日)	第90回コンサート「松永昌子ピアノで綴る旅シリーズPartⅦ世界一周 ～世界でコロナと向きあった人たち 沈黙から前進へ～」
令和4年5月7日(土)	第91回コンサート「岩古佳苗&清水美咲 Joint Recital」
令和4年5月21日(土)	第92回コンサート「Ver Quartet(ヴェールクアルテット)コンサート」
令和4年10月16日(日)	第93回コンサート「ルミコールコンサート～歌と共に 明日があるさ～」
令和4年11月5日(土)	講演会「数寄の雑談—千利休を中心として—」(講師：筒井 紘一氏)
令和4年11月12日(土)	講演会「後鳥羽院の『時代不同歌合』と定家の『百人一首』」(講師：吉海 直人氏)
令和4年11月13日(日)	第94回コンサート「福井英里子 ヴァイオリンリサイタルVol. 7 ～ヴァイオリンソナタの情熱を求めて～」
令和4年11月20日(日)	講演会「足利義昭は道休か？」(講師：小泉 信吾氏)

団体施設使用による催物一覧

開催日	内容
令和4年4月24日(日)	一般社団法人 古民家再生協会大阪
令和4年5月22日(日)	「ホテルとしまもと」 島本・緑と水を守る会
令和4年6月21日(火)	「三線と一緒に歌おう」 童謡クラブ
令和4年7月17日(日)	「高島市産直市場」 一般社団法人島本交流協会
令和4年9月11日(日)	「高島市産直市場、紙芝居」 一般社団法人島本交流協会
令和4年9月25日(日)	「島本の木を使った木工製作」 島本の森と水と健康を考える会
令和4年10月2日(日)	「ボーイスカウト仲間と子供たちのふれあい」 日本ボーイスカウト島本第一団
令和4年10月23日(日)	「高島市産直市場、紙芝居等」 一般社団法人島本交流協会
令和4年11月10日(木)	「万葉集の研究」 ふみの会
令和4年11月23日(水・祝)	「高島市産直市場、ピアノ演奏等」 一般社団法人島本交流協会
令和4年11月26日(土)	「ハーモニカ演奏」 ふれあいハーモニカ島本
令和4年12月3日(土)	「第38回島本町農林業祭」 島本町都市創造部にぎわい創造課
令和4年12月11日(日)	「吹奏楽の演奏」 島本シンフォニックバンド
令和4年12月18日(日)	「高島市産直市場、ピアノ演奏等」 一般社団法人島本交流協会
令和5年1月22日(日)	「高島市産直市場、ピアノ演奏等」 一般社団法人島本交流協会
令和5年2月5日(日)	「タヴェルネッタ・シマモト」 SMALL
令和5年3月21日(火・祝)	「稚児行列」 みなせ野KEMARIクラブ
令和5年3月26日(日)	「高島市産直市場、ピアノ演奏等」 一般社団法人島本交流協会
令和4年4月～令和5年3月 毎週火・土曜日	「朝市」 島本町農業振興団体協議会

入館団体

平成4年度（2022）

日付	団体名	団体数	日付	団体名	団体数
4月3日	梅花万葉友の会	2団体	10月2日	京都史跡ガイドボランティア協会	6団体
4月20日	NPO法人 長岡京市ふるさとガイドの会		10月8日	京都史跡ガイドボランティア協会	
5月17日	豊中シルバー会	3団体	10月10日	社団法人 大阪あそ歩	
5月18日	高槻写真クラブ		10月16日	京都史跡ガイドボランティア協会	
5月29日	橋本社 中山の会		10月20日	すこやか会	
6月1日	島本町役場（島本町新任教員初任者研修）	4団体	10月22日	歴史街道倶楽部	
6月2日	メルパルク京都カルチャールーム		11月1日	島本町立第一小学校四年生	
6月18日	富田健康を守る会		11月3日	歴史街道倶楽部	
6月23日	ONCC大阪府北部コミュニティカレッジ		11月11日	MAPTふるさとウォーキング	
7月21日	京都百人一首の会	2団体	11月16日	京都市桂川社会福祉協議会	5団体
7月23日	すこやか会		11月23日	社団法人 大阪あそ歩	
8月21日	京都史跡ガイドボランティア協会	1団体	2月10日	島本町立第一小学校三年生	4団体
9月8日	箕面和楽会	3団体	2月10日	島本町立第三小学校三年生	
9月17日	京都史跡ガイドボランティア協会		2月16日	島本町立第二保育所	
9月17日	年輪27 あゆみ会		2月24日	島本町立第四小学校三年生	

年間 30 団体

利用状況

令和4年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	626	755	632	955	623	1,159	1,582	1,330	3,718	969	2,030	1,012	15,391
講演会等 受講者数	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
コンサート入館者数	176	143	0	0	0	0	88	58	0	0	0	0	465
総入館者数	802	898	632	955	623	1,159	1,670	1,488	3,718	969	2,030	1,012	15,956

寄贈・寄託

令和4年度は628点の寄贈をしていただきました。

内容	点数	内容	点数
衣服・装身具	2	社会生活	5
食生活用具	33	民俗芸能・遊戯・娯楽	419
住居用具	2	文書	3
交易	8	写真	156

合計 628 点

受入れ図書 令和4年度

発行者	タイトル	発行者	タイトル
相生市教育委員会	相生市文化財調査報告書 第21集甲崎古墳 測量調査報告書	株式会社イビソク関西支店	平安京右京六条三坊二町跡・西院遺跡
明石市市民生活局文化・スポーツ室	明石の歴史 第5号	王寺町	王寺町文化財調査報告書 第17集 西安寺跡第10次発掘調査報告書
朝倉市教育委員会	林田篠原垣遺跡 福岡県朝倉市杷木林田所在遺跡の調査 朝倉市文化財調査報告書 第39集 立間遺跡 福岡県朝倉市杷木池田所在遺跡の調査 朝倉市文化財調査報告書 第40集 長光寺遺跡第6地点 福岡県朝倉市杷木池田所在遺跡の調査 朝倉市文化財調査報告書 第41集 朝倉市文化財年報(令和元年度) 朝倉市文化財調査報告書 第42集	大阪狭山市教育委員会	狭山池シンポジウム2022 北条氏と豊臣政権 一狭山藩の成立過程を追うー 記録集 大阪狭山市文化財報告書56 大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書31
綾部市教育委員会	京都府綾部市文化財調査報告 第46集 平成30年度・令和元年度山城址周辺史跡調査報告 京都府綾部市文化財調査報告 第47集 北野台遺跡第2次調査報告 北野台遺跡第4次調査概要報告	大阪大学総合学術博物館	大阪大学総合学術博物館 年報2021
綾部市資料館	令和3年度 綾部市資料館館報遠藤家文書調査記録	大阪大学埋蔵文化財調査委員会	大阪大学埋蔵文化財調査室 年報6
株式会社アルクス	アルクス発掘調査報告4 平安京左京三条三坊十町跡・二条殿御池城跡・烏丸御池遺跡	大阪府教育委員会	大阪府教育庁文化財調査事務所年報25 大阪府埋蔵文化財調査報告2021-1 大町遺跡V 一府宮岸和田大町住宅内水路管理道路整備工事に伴う発掘調査ー 大阪府埋蔵文化財調査報告2021-3 太井遺跡 一府立農芸高等学校水禽舎新築工事に伴う発掘調査ー 西野々古墳群・外子遺跡・西野々遺跡発掘調査概要 一府宮農村総合整備事業「伏見堂地区」に伴う試掘・確認・発掘調査ー 摂津における中世城館の調査
飯田市教育委員会	飯田城跡 安宅遺跡 史跡飯田古墳群保存活用計画 史跡恒川官兵衛遺跡 恒川遺跡群 郡衛北限溝及びその周辺における発掘調査報告書 下の原A遺跡 西浦遺跡ー市道上郷35号線・483号線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー 平成30年度～令和2年度 市内遺跡緊急発掘調査報告書 坐光寺原遺跡 坐光寺スマートIC接続道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 下の原A遺跡 株式会社中村の事務所及び倉庫建設に先立つ埋蔵文化財包蔵発掘調査報告書 飯田古墳群 範囲確認調査報告書 令和元～3年度	公益財団法人大阪府文化財センター	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第317集 黒山遺跡・太井遺跡 堺市美原区黒山東事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第318集 伊加賀遺跡・伊加賀古墳群 京阪本線(寝屋川市・枚方市)連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大阪府文化財センター調査報告書 第319集 高槻市 成合3号墳・成合4号墳 高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大阪府文化財センター調査報告書 第321集 高槻市 金龍寺旧境内跡5 高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第322集 大泉郡条里遺跡8 寝屋川水系改良事業(一級河川恩智川法善寺多目的遊水地)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第323集 梶原古墳群2 高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
斑鳩町教育委員会	斑鳩町文化財調査報告 第6集 平成二十一年三月 奈良県斑鳩町 安田家文書調査報告書	大阪府立狭山池博物館	令和4年度春季企画展 「土木遺産展 一舗装一道路・道路」 大阪府立狭山池博物館図録34 令和4年度 池守田中家文書特別公開展 狭山の御代官も大変でござる 大阪府立狭山池博物館図録35 大阪府立狭山池博物館 図録36 古墳時代導水施設の儀礼
池田市教育委員会	池田市文化財調査報告 第47集 池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2020年度	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館 館報25 令和4年度 夏季特別展 献ずる器 横穴式石室を彩るものたち 大阪府立近つ飛鳥博物館 令和4年度 秋季特別展 川と道の織りなす河内の交通 一犬和川と船橋・国府遺跡ー
池田市立歴史民俗資料館	令和四年度特別展 「屏風祭ー池田の文化をひらくー」	大阪府立弥生文化博物館	令和2年度 大阪府立弥生文化博物館 要覧 令和4年度夏季特別展 南関東の弥生文化 東からの視点
泉大津市教育委員会	泉大津市文化財調査報告59 泉大津市埋蔵文化財発掘調査報告書41	大山崎町教育委員会	令和3年度国庫補助事業調査報告 大山崎町埋蔵文化財調査報告書 第66集 長岡京跡右京第1242次調査報告 大山崎第79次調査報告 山城国府跡第79次調査報告 山城国府跡第80次調査報告 史跡大山崎瓦窯跡整備事業報告書
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 令和3年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第91号	大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館 館報 第27号 第三〇回企画展 古絵図の魅力 一地図で旅する大山崎ー
和泉市教育委員会	和泉市埋蔵文化財発掘調査概報32	岡山市教育委員会	岡山市埋蔵文化財センター年報21 ー2020(令和2)年度ー 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要 第14号 岡山城三之外曲輪跡 一岡山市表町三丁目10番11番23番24番地区市街地再開発事業に伴う発掘調査ー
和泉市教育委員会	史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために 一史跡池上曾根遺跡再整備計画ー	乙訓の文化遺産を守る会	乙訓文化遺産 26号
和泉市史編さん委員会	和泉市史紀要 第30集 和泉市の調査・研究 I 和泉市史紀要 第31集 池上曾根遺跡の研究	角田市郷土資料館	角田市文化財調査報告書 第55集 角田石川家に嫁いだ伊達政宗の次女 宇字姫への手紙 三 後水尾天皇女房局師ほか 柏原の歴史 I 旧石器～弥生時代
伊丹市教育委員会	伊丹市埋蔵文化財調査報告書 第49集 兵庫県伊丹市 有岡城跡発掘調査報告書XXVI 一第316次調査Ⅱ区一 一第323次調査一	柏原市立歴史資料館	令和3年度春季企画展 聖徳太子の伝説と真実 柏原・王寺・三郷の道と寺 史跡誕生100年 一高井田横穴と松岳山古墳一
伊丹市埋蔵文化財センター	令和3年度 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業 伊丹市埋蔵文化財センター展示 なぜ坊や しらべものノート 伊丹の酒をささえつけた「垂壺」という壺のおはなし		
猪名川町教育委員会教育振興課社会教育室	猪名川町文化財調査報告書12 令和3年度 文化財関係国庫補助事業 猪名川町内遺跡文化財調査報告書 多田銀銅山遺跡 民田千軒地区 多田銀銅山遺跡 銀山地区 多田銀銅山遺跡 概並・万善地区		
茨木市教育委員会	展示図録 ほとけの心・木のちから 一蓮花寺と地域の美術 茨木市立文化財資料集 第82集 令和3年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報 一令和3年度国庫補助事業一 深見遺跡の発掘調査 令和4年改訂版 茨木市文化財資料集 第81集 宿久庄遺跡 I 東奈良遺跡銅鐸型発見50周年プレ事業2022 シンポジウム資料集 銅鐸から弥生時代社会を見直す わがまち茨木 民話・伝説編		
茨木市立文化財資料館	茨木市立文化財資料館 館報 第7号		

発行者	タイトル
柏原市立歴史資料館	柏原市古文書調査報告書 第十七集 中河内郡堅下村大字大畷 山崎家文書目録Ⅰ
交野市教育委員会	交野市埋蔵文化財調査報告2021-1 令和3年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
	交野市史研究紀要 第二七輯 河内国交野郡森村庄屋文書 河内国交野郡私部村無量光寺文書 その一
	交野市文化財だより 第33号
	交野市文化財保存活用地域計画関連企画 令和3年度 交野市市民文化財講座 『天野川流域の古代社会を探る』資料集
葛城市歴史博物館	葛城市歴史博物館企画展図録 第19冊 二上山麓を辿る道—葛城の古道を辿る2—
	葛城市歴史博物館特別展図録 第22冊 古墳時代の葛城に馬がいた—葛城と大和・河内の馬と牧—
かつらぎ町教育委員会	和歌山県伊都郡かつらぎ町文化財調査報告書 第19集 令和2年度 かつらぎ町埋蔵文化財調査年報
門真市 公益財団法人 大阪府文化財センター	門真市埋蔵文化財発掘調査 第11集 大阪府文化財センター調査報告書 第320集 門真市 普賢寺遺跡 門真市幸福東土地区画整理事業に伴う普賢寺遺跡発掘調査報告書
神奈川大学 日本常民文化研究所	神奈川大学日本常民文化研究所調査資料目録 離宮八幡宮文書目録(三)近代・現代編2 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町)
株式会社RNA	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告93 薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第3遺跡発掘調査報告書—(仮称)GD芝公園新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—
川西市教育委員会	令和2年度 川西市発掘調査報告
公益財団法人 元興寺文化財研究所	令和元年秋季特別展示解説書 瓦仙人の世界—考古学者藤澤一夫コレクションから—
	平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡(HJG10次)—令和2年度発掘調査報告書—
	平城京左京四條六坊八坪・奈良町遺跡(HJG11次)—令和2年度発掘調査報告書—
	平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡(HJG12次)—令和2年度発掘調査報告書—
荻田町教育委員会	平成31年度 荻田町文化財事業年報 まちの歴史6
	荻田町文化財調査報告書 第48集 等覚寺の松会・綱打ち調査報告書 一町内無形民俗文化財伝承状況調査— 荻田町文化財調査報告書 第49集 本町遺跡群—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
岸和田市教育委員会	岸和田市制100周年記念事業 特別展 岸和田と岡部家 一岸和田の礎を築いた岡部家の変遷をたどる— 岸和田市の文化財 ～100年の軌跡～
京田辺市	京田辺市埋蔵文化財調査報告書 第43集 南田辺西地区発掘調査報告書 北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の試掘調査
	京田辺市埋蔵文化財調査報告書 第44集 天理山古墳群発掘調査報告書
	京田辺市埋蔵文化財調査報告書 第45集 興戸遺跡第19次発掘調査報告書 一田辺公園拡張整備事業に伴う発掘調査—
京都市文化市民局	山科本願寺跡発掘調査総括報告書
	京都市内遺跡試掘調査報告 令和3年度
	京都市内遺跡発掘調査報告 令和3年度
	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	史跡 旧二条離宮(二条城) 平安京左京三条二坊一・八丁跡 堀川御池遺跡発掘調査報告書
	平安京左京四條三坊四町跡烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書
	洛史 研究紀要 第13号
	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2018-13 平安京左京八条四坊一町跡・御土居跡
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-13 史跡賀茂別雷神社境内
	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-14 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園
	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-5 伏見城跡・福島大夫遺跡
	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-7 羽東師清水町遺跡・長岡京跡
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-9 伏見城跡
	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-10 平安京右京四條三坊三町跡

発行者	タイトル
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-11 平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡
京都橋大学大学院	京都橋大学大学院研究論集 第20号
公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報 第142号
京都府立大学 文学部歴史学科	京都府埋蔵文化財情報 第143号
	京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報 第8号
	京都府立大学文化遺産叢書 第23集 文化財の保存活用とコミュニティ
	京都府立大学文化遺産叢書 第24集 長崎県対馬市所在 高麗版経調査報告書
熊取町教育委員会	京都府立大学文化遺産叢書 第25集 聖地霊場の成立についての分野横断的研究
	京都府立大学文化遺産叢書 第26集 京丹後市久美浜町太刀宮文書(久美浜代官所郡中代等文書)・佐治家資料調査と御留横断研究
Great Eagle Tokyo TMK株式会社パスコ	熊取町埋蔵文化財調査報告書 64集 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・X X X V
神戸市文化スポーツ局 文化財課	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告書84 [TM187] 湖雲寺跡遺跡—宿泊施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 第1分冊 第2分冊【2冊組】
	平成30年度 神戸市埋蔵文化財年報 岡本東遺跡第3次発掘調査報告書 一六甲山南麓における律令制遺跡の調査— 雪御所遺跡第5次発掘調査報告書 令和3年度 神戸市埋蔵文化財センター冬季企画展 神戸・うつりかわる町とくらし2～昭和ノスタルジー～
国民民族学博物館	月刊みんばく 2022年5月号 月刊みんばく 2022年7月号
後鳥羽院顕彰 事業実行委員会	絵本・後鳥羽上皇物語
祭礼・社寺記録映像 祭映企画	令和参年度 貝塚市文化遺産活用実行委員会 東地車修理委員会
堺市	令和3年度 国庫補助事業発掘調査報告書 陶器城跡(北村砦跡)第3・4・5次発掘調査報告 堺市文化財調査報告 第53冊
	片蔵遺跡第7次発掘調査報告 堺市文化財調査報告 第54冊 鶴田池東遺跡第7次発掘調査報告 堺市文化財調査報告 第55冊 史跡 土佐十一烈士墓保存活用計画
堺市文化観光局 文化財課	新修 ハンドブック堺の文化財 史跡名勝天然記念物編
島根県隠岐郡 海士町役場	広報海士 令和四年度11 NO.503
吹田市教育委員会	榎坂遺跡発掘調査報告書Ⅰ—榎坂遺跡第6次発掘調査— 遺物編 令和3(2021)年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 高城遺跡 都呂須遺跡 吉志部遺跡 垂水遺跡
吹田市立博物館	吹田市立博物館館報22 令和2年度(2020年度)版 吹田市立博物館開館30周年記念 令和4年(2022年)度春季特別展 出口座と阪本一房—現代人形劇の継承と発展—
住友不動産株式会社 国際文化財株式会社	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告[TM204] 俊朝寺寺域遺跡発掘調査報告書
大東市産業・文化部 生涯学習課	大東市史編纂史料集11 野崎観音慈眼寺文書 上 大東市埋蔵文化財調査報告 第44集 大東市北条7丁目所在北条西遺跡発掘調査報告書2—社会福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—
大東市立 歴史民俗資料館	令和四年度 国史跡指定記念・三好長慶生誕五〇〇年記念特別展「三好長慶と大東市の中世—飯盛城はそのとき—」
高石市教育委員会	高石市文化財発掘調査報告書2021-1 大園遺跡発掘調査報告書—18-1区・19-14区の調査— 高石市文化財発掘調査報告書2021-1 大園遺跡の発掘調査概要
高槻市立 しろあと歴史館	市制施行80周年記念プレ事業 特別展「戦国武将 三好長慶—生涯と人々—」
高槻市 街にぎわい部 文化財課	芥川城跡—総合調査報告書— 高槻市文化財調査報告書 第39冊 高槻市文化財年報 令和2年度



発行者	タイトル
高槻市街にぎわい部 文化財課 埋蔵文化財センター	高槻市文化財調査概要49 嶋上遺跡群46
高槻市立 今城塚古代歴史館	淀川の考古学
帝塚山大学 考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告X X IV
帝塚山大学 附属博物館	帝塚山大学附属博物館報X VII
豊中市教育委員会	豊中市文化財調査報告 第84集 利倉北遺跡 第1次発掘調査報告書 豊中市文化財調査報告 第86集 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 令和3年度(2021年度)
虎ノ門・六本木地区 市街地再開発組合	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告59[TM162] 但馬出石藩仙石家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 一本文編一
富田林市教育委員会	富田林市文化財調査報告18 甲田南遺跡 一診療所建設に伴う発掘調査概要報告(KDS88-1)一 富田林市文化財調査報告19 甲田遺跡・錦織遺跡・中野北遺跡発掘調査概要報告 富田林市文化財調査報告20 富田林地内町遺跡 一倉庫等建設に伴う発掘調査概要報告(GC90)一 富田林市文化財調査報告72 喜志遺跡 一兼用住宅の建設に伴う発掘調査報告(KS2017-1)一 富田林市文化財調査報告73 錦織南遺跡 一福祉施設建設に伴う発掘調査(NKS2013-1)一 富田林市文化財調査報告74 喜志南遺跡 一宅地造成に伴う発掘調査(KSS2014-1)一 富田林市文化財調査報告75 令和3年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書 富田林市文化財調査報告76 喜志南遺跡 一宅地造成に伴う埋没古墳の調査概要報告(KSS2021-2)一 富田林市文化財調査報告77 喜志城跡・中野北遺跡 一宅地造成に伴う発掘調査報告書(KSC2021-1)一
公益財団法人 長岡京市 埋蔵文化財センター	長岡京市埋蔵文化財センター年報 令和2年度 長岡京市文化財調査報告書 第78冊 長岡京市文化財調査報告書 第79冊 一伊賀寺遺跡の調査遺物編・まとめ一
西宮市	新西宮の文化財(改訂版)
西宮市立郷土資料館	西宮砲台指定100年記念 西宮市立郷土資料館第37回特別展示図録 御台場築造 一西宮・今津の砲台一
寝屋川市教育委員会	国指定史跡高宮座跡保存活用計画書
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群X LIII 羽曳野市埋蔵文化財調査報告書89
世界遺産・文化財 総合管理室文化財課	羽曳野市内遺跡調査報告書 一令和元年度一 羽曳野市埋蔵文化財調査報告書90
阪南市教育委員会	阪南市埋蔵文化財報告62 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要40
阪南市 文化遺産 活用実行委員会	令和3年度阪南市地域文化財総合活用推進事業 箱作東共同墓地・貝掛薬師寺跡関連石造物調査資料 一阪南市における歴史文化遺産の情報発信への取り組み一
東大阪市立 郷土博物館	東大阪市立郷土博物館 令和4年度特別展示 戦乱の東大阪展示解説書
枚方市	枚方市文化財調査報告 第93集 令和2年度 枚方市埋蔵文化財調査年報2020
枚方市 文化財研究調査会	図録 考古資料でみる枚方の歴史 2009 枚方市文化財調査報告 第71集 大阪府枚方市 禁野本町遺跡IV 一市立枚方市民病院の新病院整備事業に伴う禁野本町遺跡第172次調査報告書一
福知山市教育委員会	福知山市文化財調査報告書 第74集 段ノ田遺跡(伝東禪寺跡)発掘調査(第2次)概要
藤井寺市教育委員会	石川流域遺跡群発掘調査報告37 藤井寺市文化財報告 第47集 赤子塚古墳 古市古墳群の調査報告書VII 藤井寺市文化財報告 第48集(本文編)(図版編)【2冊組】
株式会社 文化財サービス	文化財サービス発掘調査報告書 第21集 平安京左京三条四坊一町跡 発掘調査報告書 文化財サービス発掘調査報告書 第22集 平安京左京三条二坊十五町跡・本能寺跡発掘調査報告書 文化財サービス発掘調査報告書 第23集 上京遺跡・寺ノ内旧城 発掘調査報告書 文化財サービス発掘調査報告書 第25集 旭山古墳群発掘調査報告書

発行者	タイトル
株式会社 文化財サービス	文化財サービス発掘調査報告書 第26集 平安京右京一条三坊四町跡・御土居跡発掘調査報告書 文化財サービス発掘調査報告書 第27集 嵯峨野高田町遺跡発掘調査報告書
文化庁文化財第二課	水中遺跡ハンドブック 埋蔵文化財関係統計資料 一令和4年度一
松原市	令和4年度 特別展 江戸時代のお天気と農村生活
松原市教育委員会	松原市文化財報告 第3冊 松原市内遺跡群I 民間開発事業に伴う発掘調査報告 松原市文化財報告 第9冊 立部遺跡・立部古墳群跡 松原市立大塚青少年運動広場施設整備工事に伴う立部遺跡 立部古墳群跡(F7-2-4・5)発掘調査報告書 松原市文化財報告 第10冊 松原市内所在の文化財総合調査2 一丹南・来迎寺一 松原市文化財報告 第11冊 新堂遺跡2 松原市新堂4丁目土地区画整理事業地区内における店舗建設工事に伴う新堂遺跡E7-1-68発掘調査報告書
三木市立 みき歴史資料館	みなぎの3 一令和2年度 三木市立みき歴史資料館年報・紀要一
三井不動産 レジデンシャル 株式会社	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告92 築後久留米藩有馬屋敷遺跡発掘調査報告書 一(仮称)港区三田一丁目計画に伴う埋蔵文化財発掘調査一
港区教育委員会	令和3年度 港区指定文化財 港区文化財年報1 一令和元年度の調査一
港区立郷土資料館	港区立郷土資料館 館報 一2一 令和2(2020)年度
南あわじ市 教育委員会	南あわじ市文化財調査報告書 第20集 松帆銅鐸調査報告書II 一調査研究編一 南あわじ市埋蔵文化財調査年報XII 2015・2016年度 埋蔵文化財調査
向日市文化資料館	令和3年度 特別展「日本画家・六人部曜峰」記念シンポジウム 「六人部曜峰と明治期京都画壇」報告集
公益財団法人 明治安田 クオリティオブ ライフ文化財団	公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団設立三〇周年記念 財団三〇年の歩み 一平成二三年度～令和二年度助成先のあらし一
森ビル株式会社	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告69[TM170] 港区No.170遺跡 発掘調査報告書
八尾市	新版八尾市史 美術工芸編
八尾市教育委員会 教育総務部 文化財課	大阪府八尾市 史跡由義寺跡 史跡保存活用計画 八尾市文化財調査報告86 郡川西塚古墳 発掘調査概要報告書
公益財団法人 八尾市文化財 調査研究会	令和3年度 (公財)八尾市文化財調査研究会事業報告 公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告170 大竹西遺跡第8次調査 公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告171 I 植松遺跡(第17次調査) II 恩智遺跡(第55次調査) III 郡川遺跡(第34次調査) IV 高安古墳群(第16次調査) V 水越遺跡(第29次調査) VI 八尾南遺跡(第41次調査) VII 矢作遺跡(第16次調査) 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
安田不動産株式会社	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告94[TM181-4] 愛宕下武家屋敷群 一陸奥一関藩田村家屋敷跡遺跡一発掘調査報告書II
山口県立山口博物館	山口県立山口博物館研究報告 第48号 山口県立山口博物館 館報44
八幡市教育委員会	八幡市埋蔵文化財発掘調査報告 第69集 令和3年度国庫補助事業発掘調査報告書 八幡市埋蔵文化財発掘調査報告 第70集 上奈良遺跡(第7次・第7-2次)発掘調査報告書
有限会社 京都平安文化財	京都平安文化財発掘調査報告書 第8集 伏見城跡・指月城跡 一平成27年度発掘調査報告書一 京都平安文化財発掘調査報告書 第9集 京都市山科区 中臣遺跡 第93次発掘調査報告書
学校法人 龍谷大学 龍谷大学 文化遺産学研究会	平安京跡左京七条一坊十二町発掘調査報告書 文化遺産研究 第6号
龍谷大学 文学部考古学実習室	周山2号墳発掘調査報告書 龍谷大学文学部考古学実習調査報告書 第2冊
六本木五丁目西地区 市街地再開発組合 株式会社パスコ	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告91[TM166] 相模小田原藩大久保家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 第1分冊 第2分冊 【2冊組】

町指定文化財一覧

島本町文化財保護条例が平成 20 年 7 月 1 日に施行されました。

島本町文化財保護審議会にて審議していただき、下記の文化財を指定しました。

平成 21 年度 島本町指定文化財 第 1 号	
<p>名称 : 水無瀬駒 関連資料 指定日 : 平成 21 年 4 月 14 日 所有者 : 水無瀬神宮 (個人) 所在地 : 広瀬三丁目 種類 : 有形文化財 種別 : 美術工芸品 (歴史資料) 員数 : 小将棋 (漆書・八十二才銘) 一揃 合計 39 枚 飛車が欠落 中将棋 (墨書・八十六才銘) 一揃 合計 91 枚 歩兵が欠落 中将棋 (漆書) 残欠四枚 象戯圖 一卷、附 象戯圖 一卷 時代 : 安土桃山時代</p>	
平成 22 年度 島本町指定文化財 第 2 号	
<p>名称 : 神像 (伝 聖徳太子七歳像) 指定日 : 平成 22 年 4 月 5 日 所有者 : 若山神社 所在地 : 大阪市立美術館 寄託 種類 : 有形文化財 種別 : 美術工芸品 (彫刻) 員数 : 1 軀 品質・形状 : ヒノキ材・一木造り・彫眼・彩色仕上げ 法量 : 像高 35.8cm 時代 : 平安時代後期</p>	
平成 23 年度 島本町指定文化財 第 3 号	
<p>名称 : 宝城庵 薬師如来立像 指定日 : 平成 23 年 4 月 1 日 所有者 : 宝城庵 所在地 : 桜井三丁目 種類 : 有形文化財 種別 : 美術工芸品 (彫刻) 員数 : 1 軀 品質・形状 : ヒノキ材・一木造り・彫眼・彩色仕上げ 法量 : 像高 96.5cm 時代 : 平安時代後期</p>	
島本町指定文化財 第 1 号追加	
<p>名称 : 将基馬日記 指定日 : 平成 23 年 4 月 1 日 所有者 : 水無瀬神宮 (個人) 所在地 : 広瀬三丁目 種類 : 有形文化財 種別 : 美術工芸品 (歴史資料) 時代 : 17 世紀初期 員数 : 一冊</p>	

平成24年度 島本町指定文化財 第4号

名称 : 勝幡寺 薬師如来立像
指定日 : 平成24年4月1日
所有者 : 勝幡寺
所在地 : 山崎四丁目
種類 : 有形文化財
種別 : 美術工芸品 (彫刻)
員数 : 1 軀
品質・形状 : ヒノキ材・割矧ぎ造りか・彫眼・漆箔仕上げ
法量 : 像高 150.1cm
時代 : 鎌倉時代



平成26年度 島本町指定文化財 第5号

名称 : 勝幡寺 元三大師みくじ関係資料 一式
指定日 : 平成26年4月1日
所有者 : 勝幡寺
所在地 : 山崎四丁目
種類 : 有形文化財
種別 : 民俗 (有形民俗)
時代 : 江戸時代 (一部推定を含む)
品目 : みくじ箋の版木、みくじ箱、
みくじ竹、みくじ筆筒



平成27年度 島本町指定文化財 第6号

名称 : 須恵器 大甕
指定日 : 平成27年4月1日
所有者 : 島本町教育委員会
所在地 : 桜井二丁目
種類 : 有形文化財
種別 : 美術工芸品 (考古資料)
員数 : 1 口
法量 : 口径 52.6 cm
器高 105.0 cm
最大胴部径 107.8 cm
(底部から 65.9 cmの地点)
容量 522.6ℓ
時代 : 奈良時代末期から平安時代



平成29年度 島本町指定文化財 第7号

名称 : 若山神社 絵馬
指定日 : 平成30年1月15日
所有者 : 若山神社
所在地 : 大字広瀬 1497
種類 : 有形文化財
種別 : 民俗 (有形民俗)
時代 : 江戸時代
員数 : 曳馬図絵馬 1 一面
曳馬図絵馬 2 一面
猿猴乗馬図絵馬 一面
竹虎図絵馬 一面



曳馬図絵馬 1

島本町立歴史文化資料館 館報 第15号
令和4年度版(2022)

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 令和5年12月

印刷 株式会社 西川印刷所

〒567-0828

大阪府茨木市舟木町18-30

TEL 072-634-7644